

2006年度
(平成19年3月期)
決算説明会



エーザイ株式会社
2007年5月15日

将来見通しに関する注意事項

- ・ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- ・ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- ・ また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- ・ 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

本日のテーマ

- I. 2006年度決算業績
- II. ドラマティック リープ プラン(DLP)1年目の進捗
- III. 成長のドライバー
- IV. がん領域への参入
- V. 業績見通しと株主還元

I . 2006年度決算業績

連結決算業績

売上高8期、利益7期連続の最高実績を達成

(億円、%)

	2005年度		2006年度			
	実績	売上比	実績	売上比	前期比	増減額
売上高	6,013	100.0	6,741	100.0	112	729
売上原価	1,045	17.4	1,093	16.2	105	48
売上総利益	4,967	82.6	5,648	83.8	114	681
研究開発費	932	15.5	1,083	16.1	116	150
販売管理費	3,078	51.2	3,512	52.1	114	435
営業利益	957	15.9	1,053	15.6	110	96
経常利益	1,000	16.6	1,105	16.4	110	104
当期純利益	634	10.5	706	10.5	111	72

連結主要指標推移

	一株当たり当期純利益 (EPS)		自己資本当期純利益率 (ROE)		総資産当期純利益率 (ROA)	
	実績	前期比	実績	増減	実績	増減
2002年度	141.2円	114%	10.9%	+0.6ポイント	7.1%	+0.5ポイント
2003年度	172.1円	122%	12.4%	+1.5ポイント	8.3%	+1.2ポイント
2004年度	193.4円	112%	12.6%	+0.2ポイント	8.7%	+0.4ポイント
2005年度	221.9円	115%	13.0%	+0.3ポイント	9.0%	+0.3ポイント
2006年度	247.8円	112%	13.2%	+0.2ポイント	9.2%	+0.2ポイント

キャッシュ・フローの状況

(億円)

	営業キャッシュ・フロー		資本的支出等		フリー・キャッシュ・フロー	
	実績	増減額	実績	増減額	実績	増減額
2003年度	727	151	238	△27	489	178
2004年度	492	△235	387	149	105	△384
2005年度	871	379	435	48	436	331
2006年度	812	△59	525	91	286	△149

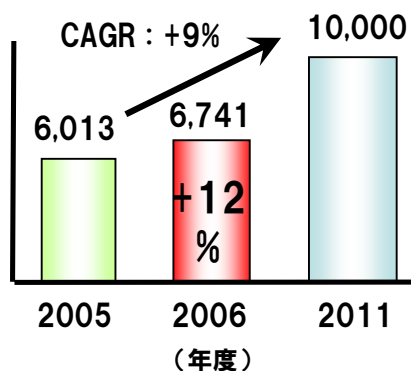
II. ドラマティック リープ プラン(DLP)

第V期中期戦略計画 (2006年度 ~ 2011年度) 1年目の進捗

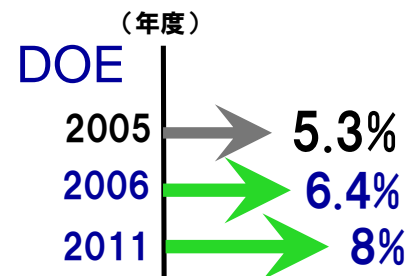
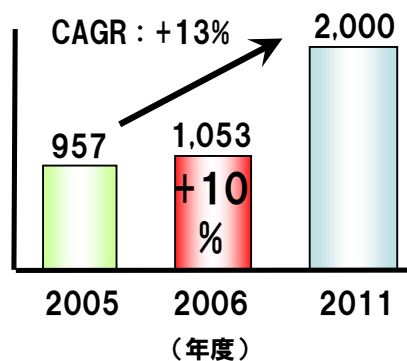


ドラマティック リープ プラン 1年目の進捗 (1)

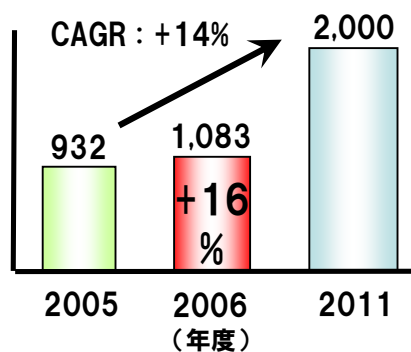
売上高



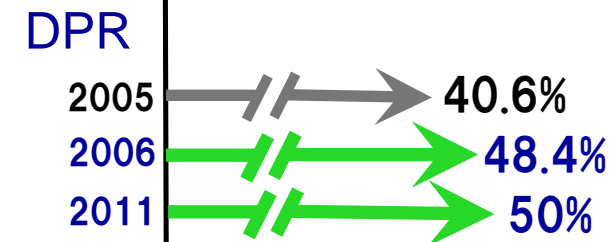
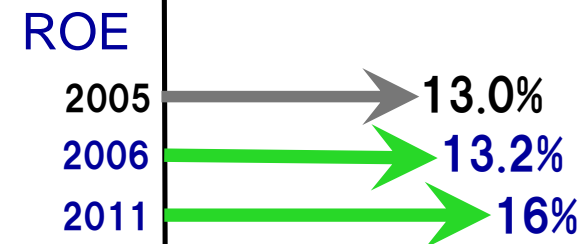
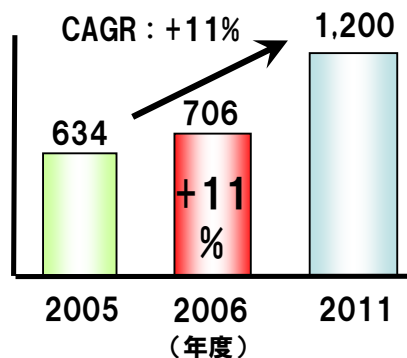
営業利益



研究開発費



当期利益

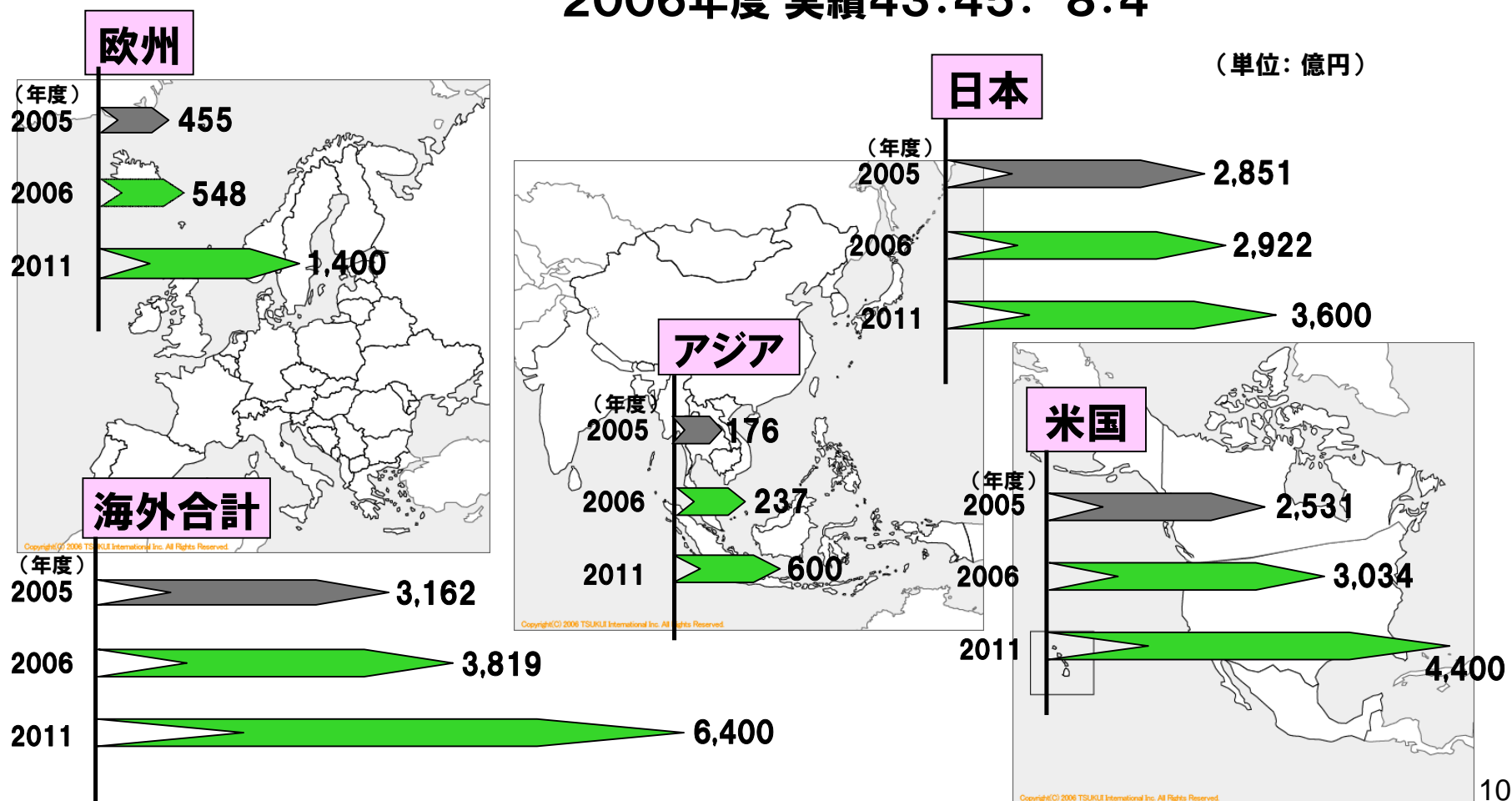


(単位: 億円)

ドラマティック リープ プラン

所在地別売上高 1年目の進捗 (2)

日・米・欧・アジアの売上構成比目標36:44:14:6
2006年度 実績43:45: 8:4



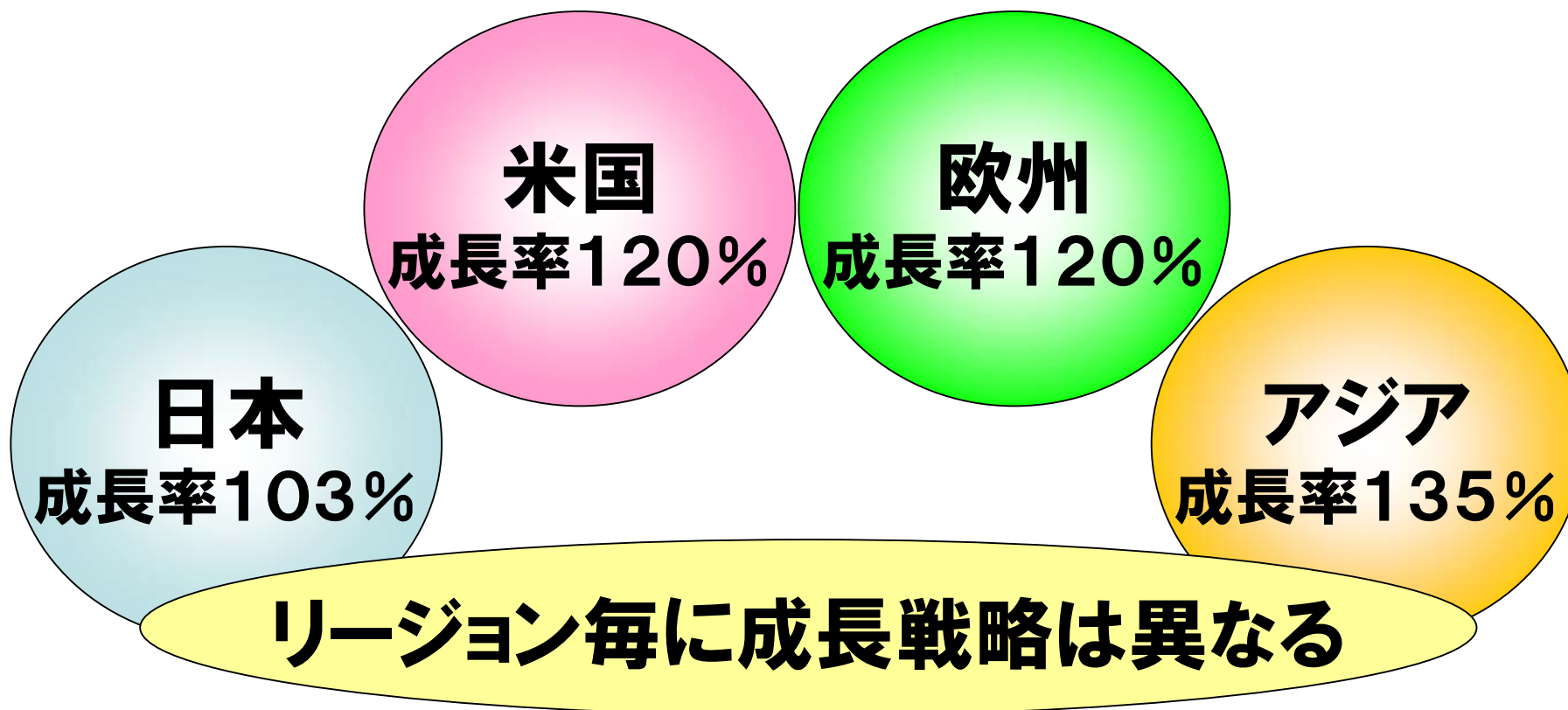
ドラマティック リープ プラン1年目の進捗 (3)

	進捗状況
世界本社構想	<ul style="list-style-type: none"> • Global Policy & Strategy Committeeを組織 • アジア・大洋州・中東事業本部設置 • グローバルHRM戦略室設置 • 日本事業本部(JBHQ)の立ち上げ
研究開発戦略	<ul style="list-style-type: none"> • 探索研究能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> - カン研究所の神戸への移転(2006年10月) - ボストン研究所新研究棟竣工(2007年1月) • アジア臨床開発拠点をシンガポールに設立 • 欧州ナレッジセンターの投資開始 <ul style="list-style-type: none"> - 本部、創薬、臨床、生産、販売機能を持つ欧州内バリューチェーンを同一サイトに集約し、欧州全域の事業活動の中心となるナレッジセンターを構築 • エーザイ・アール・アンド・ディー・マネジメント株式会社を設立 <ul style="list-style-type: none"> - R&D最高意思決定機関としてR&D Management Committee始動 - International Project Teamを直接管理する体制始動
オンコロジー戦略	<ul style="list-style-type: none"> • 鹿島事業所に抗がん剤原薬プラント(P1棟)稼動 • 米国ノースカロライナ工場に治験薬と抗がん剤生産施設建設開始 • ライガンド社抗がん剤4品を製品買収、同時にオンコロジーエキスパートを移籍 • モルフォテック社買収で抗体医薬技術とパイプラインを獲得
インディペンデントマーケティング	<ul style="list-style-type: none"> • Global Medical & Marketing Servicesを米国に設置 • MR数: 米国850名、日本1,200名、欧州480名、アジア940名
トランスフォーメーション戦略	<ul style="list-style-type: none"> • トランスフォーメーション部設置 • インド バイザッグに原薬研究・生産会社を設立 • 統計解析機能の設置・データマネジメント戦略的パートナーシップをインドに決定
グローバルヒューマンリソース戦略	<ul style="list-style-type: none"> • グローバルHRM戦略室設置 • グローバル・ヒューマン・リソース・マネジメント・ポリシー策定/実行 • 国際人材交流ポリシー策定/実行 • グローバル・エグゼクティブ・リーダーシップ・ディベロップメント・プログラム策定/実行

III. 成長のドライバー

1. 四リージョン体制

全リージョンで市場を上回る成長



所在地別売上高

北米売上高は3,000億円超を達成

(億円、%)

	2005年度		2006年度		
	実績	構成比	実績	構成比	前期比
日本	2,851	47.4	2,922	43.3	103
北米	2,531	42.1	3,034	45.0	120
欧州	455	7.6	548	8.1	120
アジア他	176	2.9	237	3.5	135
海外計	3,162	52.6	3,819	56.7	121
合計	6,013	100.0	6,741	100.0	112

(外部顧客に対する売上高)

所在地別営業利益

北米、アジアの営業利益における貢献増大
欧州新規進出国への先行的資源投入

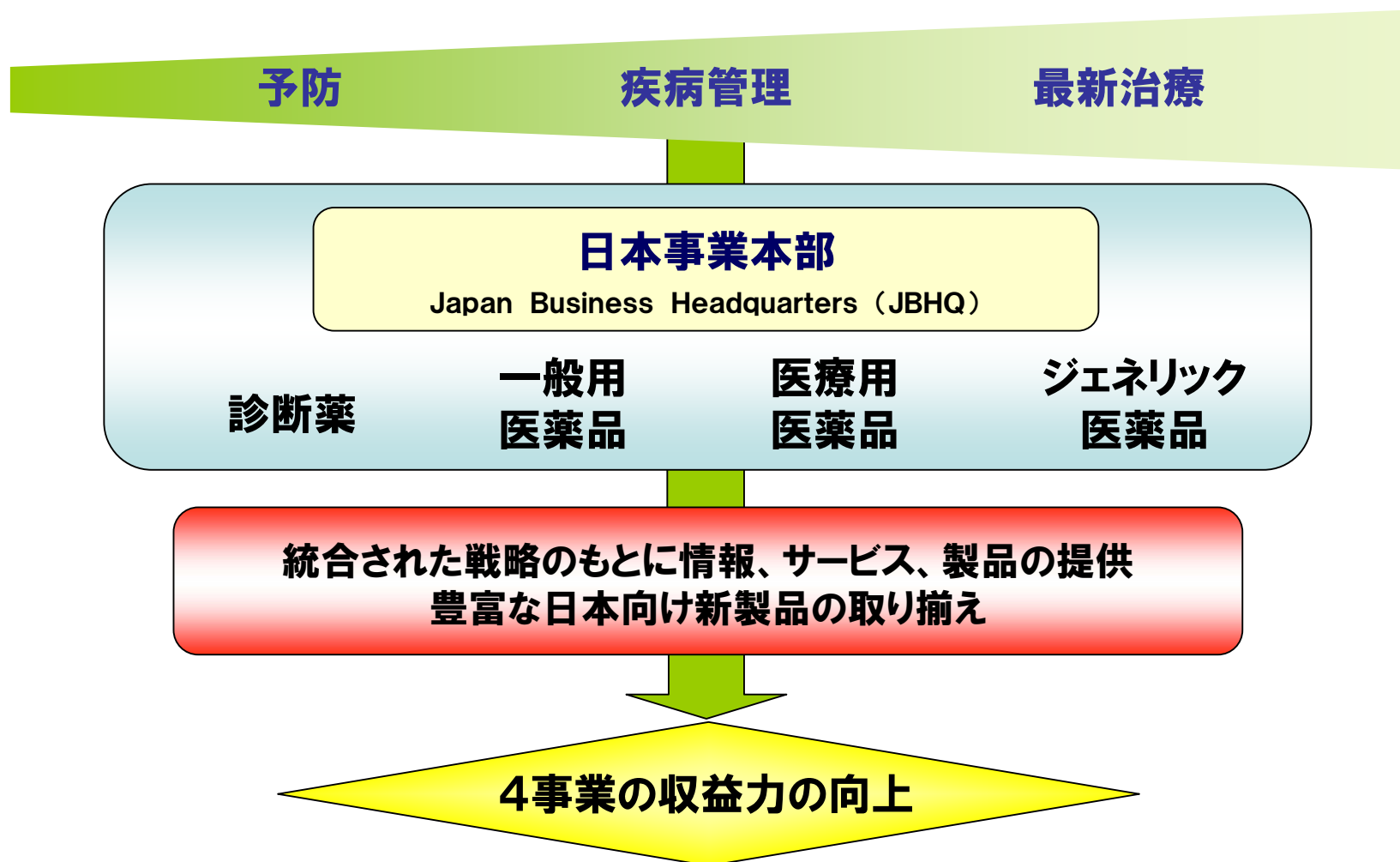
(億円、%)

	2005年度		2006年度			
	実績	構成比	実績	構成比	前期比	増減額
日本	742	71.3	728	66.4	98	△14
北米	225	21.6	288	26.2	128	63
欧州	46	4.5	41	3.7	88	△6
アジア他	28	2.7	40	3.7	144	12
海外計	299	28.7	368	33.6	123	69
小計	1,041	100.0	1,096	100.0	105	56
消去・全社	△84		△44		52	40
合計	957		1,053		110	96

日本事業

市場魅力度を前向きに再評価

薬粧事業の売上高は前年比112%、2桁台の営業利益率を達成



米国事業

医薬品産業最大クラスターの地位は不変

- **グローバル ファンクション立地**
 - Global Medical and Marketing Services
 - Global Clinical Research
- **探索研究、臨床研究、生産、販売、物流のシームレス バリューチェーンの強化**
- **ラインナップの拡大:**
 - ① アリセプト (アルツハイマー病治療剤)
 - ② アシフェックス (抗潰瘍剤 PPI)
 - ③ ゾネグラン (てんかん治療剤)
 - ④ フラグミン (血液凝固阻止剤)
 - ⑤ セレビックス (てんかん重積症治療剤)
 - ⑥ オンタック (CD25陽性皮膚浸潤性T細胞リンパ腫治療剤)
 - ⑦ タルグレチン・カプセル (再発性皮膚浸潤性T細胞リンパ腫治療剤)
 - ⑧ タルグレチン・ゲル1% (再発性皮膚浸潤性T細胞リンパ腫治療剤)
 - ⑨ パンレチン・ゲル0.1% (AIDSにともなう表在性カポジ肉腫治療剤)
- **Eisai Inc. の収益性向上**



ボストン研究所

Eisai Inc. 損益実績

(百万ドル、%)

	2005年度		2006年度			
	実績	売上比	実績	売上比	前期比	増減額
売上高	2,248	100.0	2,612	100.0	116	364
アリセプト	1,058	47.1	1,386	53.1	131	328
アシフェックス	1,009	44.9	1,084	41.5	107	75
ゾネグラン	112	5.0	27	1.0	24	△85
フラグミン	36	1.6	66	2.5	185	30
営業利益	164	7.3	231	8.9	141	67
当期純利益	115	5.1	165	6.3	144	50
営業利益 (ロイヤルティ控除前)	479	21.3	623	23.9	130	144

欧州事業

多様性に富む大市場の出現

- **進出国の拡大**(下線は2006年度新規進出国)
 - 英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、スイス、スウェーデン、アイルランド、オーストリア、デンマーク、フィンランド、ノルウェー、ポルトガル、アイスランド
 - 2007年度以降はベネルクス三国(オランダ、ベルギー、ルクセンブルグ)、ロシア、ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリーへ拡大を予定
- **欧州向け新製品の取り揃え**
 - ゾネグラン(てんかん)2005年6月発売
 - プリアルト(重度慢性疼痛)2006年7月発売
 - イノベロン(レノックス・ガスター症候群)2007年度1Q発売予定
 - ニューロブロック(痙性斜頸)2007年度販売予定
- **欧州ナレッジセンター**
 - 英国ハットフィールドに欧州地域本部、創薬、臨床、生産、販売機能を持つ欧州全域の事業活動の中心となるナレッジセンターを起工
 - 総投資金額約200億円



欧州ナレッジセンター起工式

アジア・オセアニア・中東事業 次代の成長への投資

- **中国を基盤化**
 - － 北京事務所の機能拡充
 - － 蘇州工場を拡充、8品目、12包種の生産
 - － 460名のMRで103都市に販売展開
- **シンガポールの拠点化**
 - － 臨床会社設立(Eisai Clinical Research Singapore Pte. Ltd.)
 - － リージョナルマネジメント
- **インドへのトランスフォーメーションの推進**
 - － バイザッグに原薬研究、生産会社設立
(Eisai Pharmatechnology & Manufacturing Pte. Ltd)
 - － 統計解析機能の設置とデータマネジメントの戦略的パートナーシップを決定
- **アジア向け新製品の取り揃え**
 - － クレブジン(慢性B型肝炎治療剤): 中国、台湾、フィリピン、タイ、ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド
 - － ガスモチン(消化管運動機能改善剤): タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナム、シンガポール、ミャンマー、カンボジア、ラオス、スリランカ
 - － ヒュミラ(関節リウマチ・乾癬治療剤): 台湾、韓国
 - － エリル(血管拡張剤): 中国、韓国
 - － ケスチン(抗ヒスタミン剤): 中国
 - － プラノプリン(点眼薬): 中国
 - － カタリン(白内障治療薬): 中国



インド バイザッグ 建設予定地

2. グローバルのアリセプト

パリエット/アシフェックス 全リージョンでの売上高2桁成長の達成

アリセプト®

米国 高度AD適応承認取得 (2006年10月)

- 2007年度はフルスペクトラム・プロモーションの展開により、先行指標である新規処方増加、服用期間の長期化による総処方増加を見込む
- マーケットリーダーとして潜在的なアルツハイマー病患者様、未診断の患者様への早期診断・早期治療と早期評価へのディジーズマネージメントへの取り組みを強化
- アリセプトによるアルツハイマー病の全ステージにわたるスタンダードセラピーの確立を推進

パリエット®

日本 Hピロリ除菌療法承認取得 (2007年1月)

- 胃・十二指腸潰瘍の基礎治療として重要
- 申請中の非びらん性胃食道逆流症の追加によって治療項目のフルライン対応を確立

日本 +17%
米国 +35%
欧州 +15%
アジア +50%

日本 +11%
米国 +11%
欧州 +34%
アジア +32%

(2006年度売上高前年比)

主要製品売上高

(億円、%)

製品名	所在地	2005年度	2006年度	
		実績	実績	前期比
アリセプト アルツハイマー型 認知症治療剤	日本	423	497	117
	米国 (百万ドル)	1,199 (1,058)	1,622 (1,386)	135 (131)
	欧州	299	345	115
	アジア	44	66	150
	計	1,965	2,529	129
パリエット / アシフェックス プロトンポンプ阻害型 抗潰瘍剤	日本	276	307	111
	米国 (百万ドル)	1,143 (1,009)	1,269 (1,084)	111 (107)
	欧州	90	121	134
	アジア	35	46	132
	計	1,545	1,743	113
ゾネグラン てんかん治療剤	米国 (百万ドル)	127 (112)	31 (27)	25 (24)
	欧州	4	17	476
	アジア	1	2	154
	計	131	49	38

3. Strong R&D

1) グローバル3品の進行

E2007 (perampanel) AMPA受容体拮抗剤

- **パーキンソン病**
 - **欧米でフェーズIII試験を実施中**
 - 301試験:症例エントリー終了**
 - 302試験:症例エントリー進捗約60%**
 - **2007年度中の欧米申請は計画どおり**

E2007 (perampanel) AMPA受容体拮抗剤

• てんかん

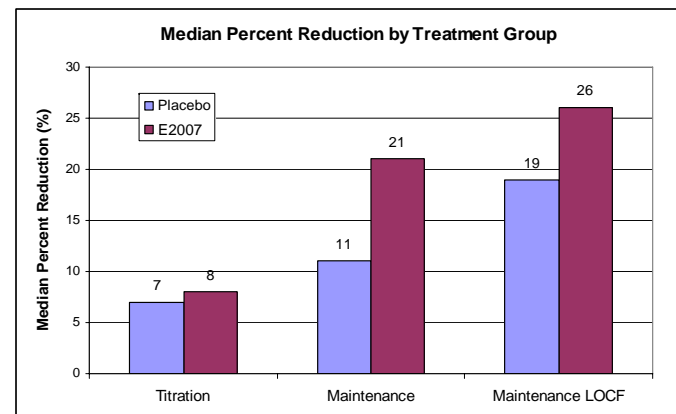
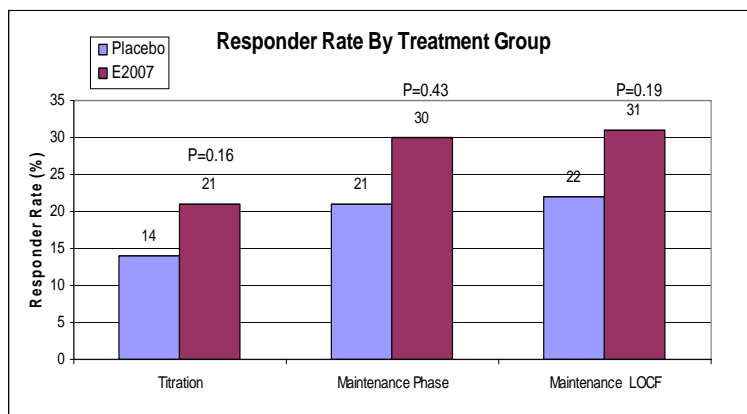
– フェーズII POC試験(206試験)デザインの概要

- 対象疾患: 難治性成人部分てんかん
- 投与期間: 4週間のベースライン期間の後、8週間の用量漸増、4週間の維持用量
- 投与群: 実薬(1mgから4mgに漸増)およびプラセボ、いずれも既治療薬との併用
- 目標症例数: 144例(実薬群96例、プラセボ群48例)
- 目的: 最大耐用量の確認、抗てんかん効果の探索的検討、薬物動態、安全性
- 実施地域: 米国、欧州

– 結果

- 153例(実薬群102例、プラセボ群51例)がエンロール
- 奏効率(てんかん発作頻度を50%以上低減した患者の率)、およびてんかん発作頻度の減少率において、プラセボより高い効果を示し、既存の抗てんかん薬の低用量と同程度であった。てんかん発作に対するE2007の効果が示唆された。(下図)
- E2007は4mg投与で高い安全性を示した

– 実施中の高用量での忍容性試験の結果を踏まえてフェーズIII試験デザインを決定する



E2007 (perampanel) AMPA受容体拮抗剤

● 片頭痛予防

－ フェーズIIPOC試験(210試験)の概要

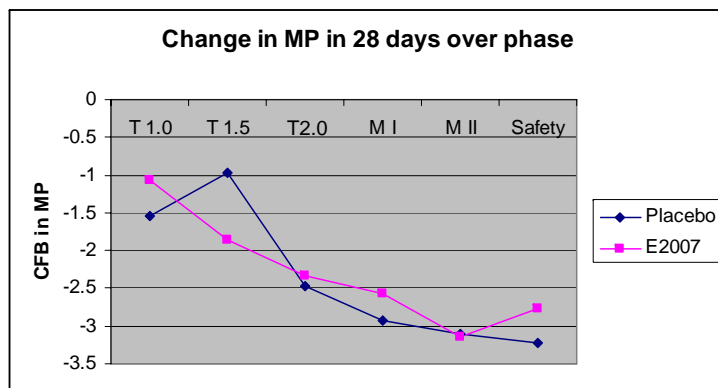
- 対象疾患: 片頭痛
- 投与期間: 4週間のベースライン期間、6週間の用量漸増、8週間の維持用量
- 投与群: 実薬(1mgから2mgに漸増)、プラセボ
- 目標症例数: 200例(各群100例)
- 主要評価項目: 4週間の事前プラセボ期間と比較した片頭痛発作回数の減少
- 実施地域: 米国

－ 結果

- 206例(実薬群102例、プラセボ群104例)がエンロール
- プラセボ群の発作減少が大きく、プラセボに対する差が見出せなかった
- E2007の高い安全性が示唆された

－ 今後、高用量での検討と、プラセボ効果を制御する試験デザインにより、E2007の片頭痛予防効果を確実に把握する

投与前値と比較した投与後の発作回数の減少



MP: Migraine 発作回数、CFB: Change from Baseline

T1.0: 2 weeks Titration Phase on 1.0mg E2007 or placebo

T1.5: 2 weeks Titration Phase on 1.5mg E2007 or placebo

T2.0: 2 weeks Titration Phase on 2.0mg E2007 or placebo

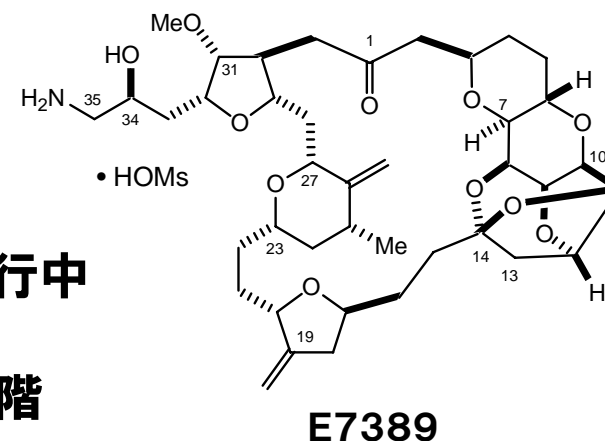
MI: First 4 weeks Maintenance Phase on 2.0mg E2007 or placebo

MII: Second 4 weeks Maintenance Phase on 2.0mg E2007 or placebo)

Safety: 4 weeks Safety Phase on placebo

E7389 (eribulin mesylate) 微小管伸長阻害剤

- 乳がん3rd ライン 米国サブパートH試験
 - 2006年10月にエンロール終了
 - 2007年度第2四半期にFDA申請前相談を予定
 - 2007年度第3四半期の米国サブパートH申請予定
- 乳がん3rd ライン 欧州フェーズIII試験
 - 2009年度申請に向け、エンロール中
- 乳がん2nd ライン フェーズIII試験
 - 2010年度申請に向け、エンロール中
- 非小細胞肺癌
 - カルボプラチンとの併用フェーズ I b試験進行中
- 前立腺がん
 - フェーズIIPOC試験のエンロールが最終段階
 - 2007年度中にPOC完了予定
- 肉腫
 - フェーズIIPOC試験進行中
- 国内フェーズ I
 - フェーズ I 試験が順調に進行中



E5564 (eritoran 4Na) エンドキシン拮抗剤

- **フェーズIII(目標2,000症例)の症例エントリーが順調に進行中**
 - 14カ国(米州3カ国、欧州8カ国、アジア等3カ国)の112施設(目標250施設)をオープンし、計画どおり195症例をエンロール
 - さらに日本を含む10カ国でサイトオープンを計画
- **日本人を対象とするフェーズI試験を米国で完了**
 - 日本人と非日本人でのPK/PDプロファイルの類似性を確認
 - 当局相談後に国内サイトがフェーズIII試験(国際共同治験)へ参加予定
- **2009年度 日米欧同時申請予定**

2) 次世代ブロックバスター候補品目

E5555 トロンビン受容体拮抗剤

- フェーズ I 試験の結果、良好な血中濃度推移、安全性及び薬理作用（血小板凝集抑制作用）を認めた。
- サルにおけるE5555とt-PA（血栓溶解剤）の相互作用試験の結果、出血を伴う死亡例が観察されたため、原因究明のためフェーズ II 試験を中断した
- モルモットやサルを用いた追加試験の結果、上記試験における出血はE5555の薬理作用による影響とは考えられないと結論付けられたため、フェーズ II 試験のエンロールを再開する
- 201 試験は、安定狭心症等の安定期冠動脈疾患患者600例に対し、忍容性ならびに心イベント、血管炎症マーカーへの効果を検討する
- FDAとのEnd of Phase I Meetingでフェーズ II、III試験の概要について合意を得た

AS-3201 アルドース還元酵素阻害剤

- 大日本住友製薬と共に米国フェーズIII試験結果を詳細解析中
(患者サブpopulationの層別解析等)
- 糖尿病性神経障害の専門家によるアドバイザーミーティングを5月中に開催し、その上で今後の開発戦略を作成する

E2012 γ セクレターゼモジュレーター

- ラット13週間投与安全性試験で、高用量投与群において、眼科学的検査の結果、水晶体変化(混濁)が認められた
- 自主的に単回投与フェーズI試験を中断し、FDAに報告した結果、FDAからクリニカルホールドの連絡を受けた
- フェーズI被験者でのフォローアップならびに動物での回復性や安全域などを確認し、2007年度中を目処にFDAに回答し、早期の臨床試験再開を目指す
- フェーズIでのバイオマーカーから有効用量を推定し、フェーズIIとIIIを一つのプロトコルで実施するadaptive designも視野に入れる

3) 重要な剤形追加

- **アリセプト**

- 経皮吸収型テープ製剤は、フェーズ I 試験開始準備中
 - 患者様の利便性の改善
- 徐放性製剤はフェーズ III 試験開始準備中
 - 安全性を維持しつつ効果を向上

- **アシフェックス/パリエット**

- 長時間作用型製剤は、フェーズ III 試験開始準備中
 - 夜間に亢進する胃酸分泌を抑制

4) 豊富な日本のパイプライン

(申請時期)

2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2009年度	2010年度	2011年度
T-614(9月) 関節リウマチ	タンボコール (12月) 発作性心房 細動・粗動	アリセプト(12月) 高度 アルツハイマー 型認知症	パリエット(8月) ヘリコバクター ピロリ二次除菌	アリセプト ゼリー製剤	E7389 乳がん	E2007 パーキンソン病	E5555 急性冠症候群
		D2E7(12月) 関節リウマチ	E2014(12月) 痙性斜頸	D2E7 乾癬	E5564 重症敗血症		
		パリエット(3月) 非びらん性 胃食道逆流症	ワソラン(1月) 心房細動、発 作性上室性頻 拍	KES524 肥満症	D2E7 クローン病		
			イオメロン(3月) イオメロン350				

 : 新規化合物

IV. がん領域への参入

抗体医薬研究会社 モルフォテックを買収

2007年4月16日(米国時間)からエーザイの
メンバー企業として、抗体医薬品の開発を始動

完全ヒトモノクローナル抗体を産生、最適化する
Human MORPHODOMA[®]技術

数千種のハイブリドーマ細胞のライブラリーを構築する
Libradoma[™]技術

- 抗体パイプライン(前臨床5品、臨床2品)
- 新規抗原の獲得

アカデミアおよび外部研究機関との
コラボレーション

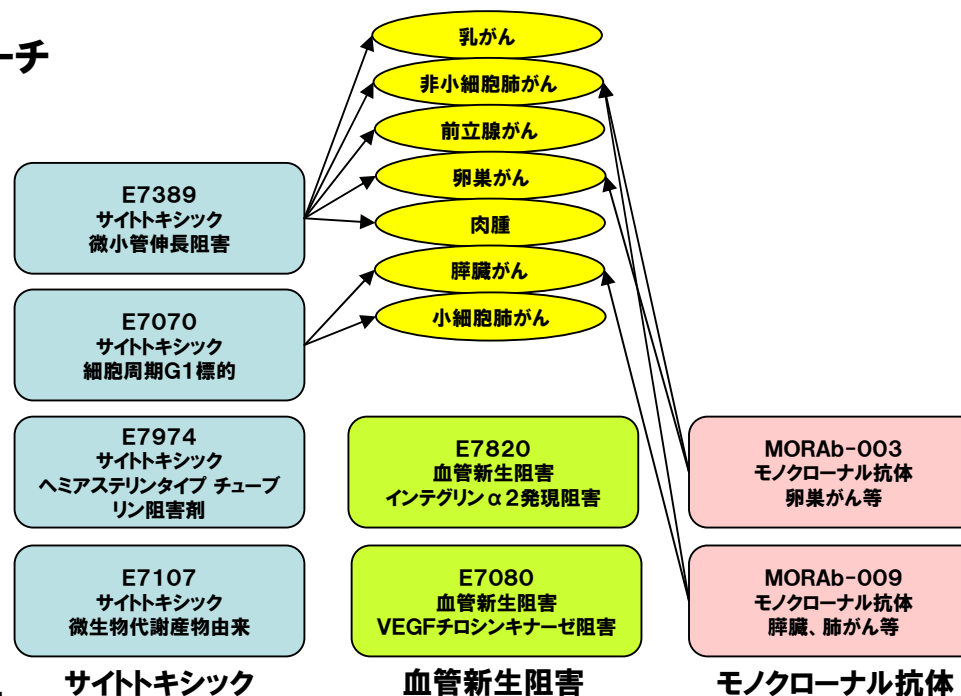


抗体治療薬創出の充実

Small Molecule, Biologics 両領域への展開(1)

低分子化合物とバイオロジクス をもつことの意義

- がんの多様性を考慮し、多面的アプローチにより、最適な治療法を開発
- がん抗原に対する抗体医薬により、診断と治療が直接つながるテーラーメイド医療を実現
- 自社の低分子化合物と抗体との併用療法により、より有効性の高い標準療法を確立できる可能性
 - 縮小効果を有する低分子化合物：
E7389、E7070、E7974、E7107
 - 長期にがんの増殖をコントロールできる低分子化合物：
E7820、E7080
 - 安全性プロファイルが低分子化合物とは異なる抗体治療薬：
MORAb-003、MORAb-009



Small Molecule, Biologics 両領域への展開(2)

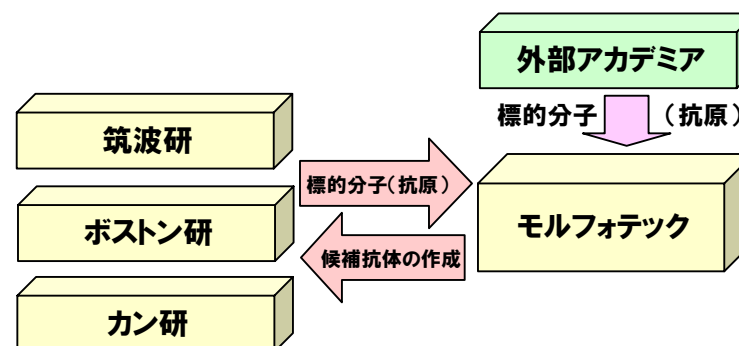
創薬上のメリット

- 低分子化合物、薬理評価、抗体の3研究基盤を組み合わせることで、R&D生産性を向上
- 低分子化合物と抗体のそれぞれの長所を生かした創薬が展開できる
- 同一標的分子から双方への創薬展開が可能：抗体での開発を先行し、低分子化合物へ展開

低分子化合物	抗体
<ul style="list-style-type: none"> • 細胞内の標的に対する有効性 • 経口投与を含め、投与経路の選択肢が広い（化合物の物性に依存） 	<ul style="list-style-type: none"> • 標的分子(抗原)の同定から短期間で候補抗体の創出 • 標的特異的のため副作用予測の容易性

エーザイ研究所間の連携

- モルフォテックによる外部提携を活用した新規抗原の探索と候補抗体の作成
- ボストン研でHuman Tissue Bankの確立と標的分子のバリデーション、バイオマーカー研究の充実
- 筑波研、ボストン研、カン研によって見出された新規抗原を、モルフォテックでMorphodoma技術を活用した候補抗体作成
- モルフォテック作成の候補抗体の、筑波研、ボストン研で薬理評価
- 筑波研、ボストン研で、新規抗原(ターゲット分子)に対する低分子化合物の創薬研究



オンコロジー・コマーシャル・ストラクチャーの整備

米国がん関連MR数: 計160名
オンコロジーフランチャイズチーム30名
+ 病院販路チーム130名

MR



米国抗がん剤生産施設予定地

Regulatory/
Reimbursement

サンディエゴオフィス:
レギュラトリースタッフの充実

Manufacturing

原薬製造投資: 鹿島事業所
製剤化投資: 米国ノースカロライナ工場
ロジスティックス

Medical/
Marketing

カンファレンス活動の活発化(ASCOへの出展)
ASCO 2007で6演題を発表予定



ASCO 2007へ出展

オンコロジー現製品の充実

領域	製品名	概要・作用メカニズム	治療アプローチ
Onco-therapy	ONTAK[®]	CD25陽性皮膚浸潤性 T細胞リンパ腫治療剤 (静脈内注射)	サイトトキシック
	Targretin[®] Capsule	再発性皮膚浸潤性 T細胞リンパ腫治療剤 (経口投与)	サイトスタティック
	Targretin[®] Gel 1%,	再発性皮膚浸潤性 T細胞リンパ腫治療剤 (経皮投与)	サイトスタティック
	Panretin[®] Gel 0.1%	AIDSにともなう 表在性カポジ肉腫治療剤 (経皮投与)	サイトスタティック
Pain	Prialt[®]	重度慢性疼痛治療剤	サポータティブ治療
Venous Thrombo- embolism	Fragmin[®]	血液凝固阻止剤	サポータティブ治療

NMEパイプライン

領域	プロジェクト	作用機序	適応症	進捗状況	申請予定
神経	ルフィナマイド INOVELON®	ナトリウムチャンネルの モジュレーション	レノックス・ガスター症候群 レノックス・ガスター症候群 てんかん	2007年1月16日(英国時間)オーファン指定の販売承認を欧州委員会より取得 2006年9月に米国FDAよりApprovable letterを受領、 今後の承認に向けたアクションにつき、当局とミーティングを行う	承認 申請中
	E2007	AMPA 受容体拮抗	パーキンソン病	欧米でフェーズIII試験を実施中、(3試験中1試験でエントリー終了)計画どおりの申請に向けて進行中	2007年度
			片頭痛予防 てんかん	フェーズIIPOC試験終了 フェーズIIPOC試験終了	
			多発性硬化症	フェーズIIPOC試験準備中	
	AS-3201	アルドース還元酵素阻害	糖尿病合併症	糖尿病性神経障害を対象としたフェーズIII試験を大日本住友製薬が米国において実施、結果解析中	2009年度
	E0302	メコバラミン	筋萎縮性側索硬化症	フェーズII/III試験実施中	2012年度
E2012	γセクレターゼモジュレーター	アルツハイマー型認知症	米国においてフェーズI試験を一時中断中	2010年度	
がん	E7389	微小管伸長阻害	乳がん	3rdラインのサブパートH用試験順調に進行中、 2ndライン および3rdラインフェーズIII試験進行中	2007年度 (サブパートH申請)
			前立腺がん	フェーズIIPOCエンロール終了	
			非小細胞肺癌	カルボプラチンとの併用フェーズIb試験実施中	
			肉腫	フェーズIIPOC試験開始	
	E7820	α2 インテグリン発現抑制	がん	フェーズI試験進行中(日本)	
	E7070	細胞周期G1期標的	小細胞肺癌、すい臓がん	セツキシマブ併用フェーズI b/II試験(3rdライン)実施中(米国) イリノテカンとの併用で今後の可能性を追求	2011年度
	E7080	VEGF受容体 チロシキナーゼ阻害	がん	日米欧でフェーズI試験実施中	2012年度
	E7974	ヘミアステリンタイプ チューブリン重合阻害	がん	フェーズI実施中(米国)、P-糖タンパク質が高発現している大腸がんへの効果に期待	2012年度
	MORAb-003	モノクローナル抗体	卵巣がん	フェーズI/II試験進行中	
	MORAb-009	モノクローナル抗体	すい臓がん	フェーズI試験進行中	
クリティカル・ケア、 リウマチ等	T-614	サイトカイン/ イムノグロブリン産生抑制	関節リウマチ	2003年9月申請	申請中
	D2E7	ヒト抗ヒトTNFα モノクローナル抗体	関節リウマチ	2005年12月申請	申請中
			乾癬	フェーズII/III試験進行中	2007年度
			クローン病	フェーズII/III試験開始	2009年度
	E5564	エンドトキシン拮抗	重症敗血症	重症敗血症を対象としたフェーズIII試験を実施中、計画どおりのサイトオープン、患者エントリーが進行中、日本人を対象とするフェーズI試験終了	2009年度 (日米欧同時)
	E2014	B型ボツリヌス毒素	痙性斜頸	2006年12月申請	申請中
	KES524	セロトニン/ノルアドレナリン 再取り込み阻害	肥満症	フェーズIII試験進行中	2007年度
	クレブジン	HBV ポリメラーゼ阻害	B型肝炎	フェーズIII試験準備中(中国)	
	E5555	トロンピン受容体拮抗	急性冠症候群	フェーズII試験実施中(欧米) フェーズI試験実施中(日本)	2010年度 2011年度
E1224	エルゴステロール生合成阻害	真菌感染症	フェーズI進行中(米国)	2011年度	

V. 業績見通しと株主還元

連結業績見通し

(億円、%)

	2006年度		2007年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上高	6,741	100.0	7,200	100.0	107
売上原価	1,093	16.2	1,130	15.7	103
売上総利益	5,648	83.8	6,070	84.3	107
研究開発費	1,083	16.1	1,240	17.2	115
販売管理費	3,512	52.1	3,710	51.5	106
営業利益	1,053	15.6	1,120	15.6	106
経常利益	1,105	16.4	1,150	16.0	104
当期純利益	706	10.5	750	10.4	106
EPS (円)	247.8		263.3		106

株主還元の実

年度	中間 配当	期末 配当	年間配当	配当 性向	ROE	DOE
2003	18円	18円	36円	20.9%	12.4%	2.6%
2004	21円	35円	56円	29.0%	12.6%	3.7%
2005	40円	50円	90円	40.6%	13.0%	5.3%
2006	55円	65円	120円	48.4%	13.2%	6.4%
2007 (予定)	65円	65円	130円	49.4%	13.3%	6.5%